

国総研資料第 1317 号

「マルチビーム測深を活用した基礎捨石均しの出来形管理に関する検討（その2）」を刊行します

港湾分野では、建設現場における省人化対策、生産性向上の取組として、浚渫工、基礎工、ブロック据付工、本体工、海上地盤改良工等の多くの工種で ICT 施工が行われています。本資料では、マルチビーム測深を活用した基礎捨石均しの人力均しの出来形計測作業の効率化、生産性向上を目標として、マルチビーム測深による新たな出来形管理手法を提案し、その手法による出来形管理精度の検討を行いました。

基礎捨石の人力均しの本均し 6 工事、荒均し 4 工事の現地試験結果による検討を行った結果、本均し、荒均しの出来形管理項目において、提案手法により従来の出来形管理基準と同等の評価が可能であることが確認できました。

<目次>

- 第 1 章 はじめに
- 第 2 章 マルチビーム測深を活用した基礎捨石均しの出来形管理の課題と提案手法
- 第 3 章 基礎捨石本均しの出来形管理手法の現地実証
- 第 4 章 基礎捨石荒均しの出来形管理手法の現地実証
- 第 5 章 おわりに
- 謝 辞・参考文献

本資料は、国総研ホームページで公開しています。

ダウンロード先 URL : <https://www.ysk.nilim.go.jp/kenkyuseika/pdf/ks1317.pdf>

（問い合わせ先）

国土技術政策総合研究所 港湾情報化支援センター 港湾業務情報化研究室
主任研究官 大倉 翔太 （内線：3351）
TEL：046-844-5019 E-mail: ysk.nil-46pr@gxb.mlit.go.jp